

2月3日 7中総決定推進本部長 小池 晃

はじめに——会議の目的

7中総・「手紙」の全党徹底・全面実践に向けて、1月の教訓に学び、問題点を打開し、力を合わせて開拓し、正念場の2月の大飛躍をつくりだすこと

1月の結果と、その到達をどう見るか

- ・7中総は、全党に何を提起したか
 - ・「手紙」の支部討議は67・0%
- 入党の働きかけは4332人、働きかけ支部は1割強、入党申し込みは391人
「しんぶん赤旗」読者拡大は、日刊紙339人減、日曜版208人減、電子版86人増
党員も、読者も後退に
- ・対話・支持拡大取り組み支部は49・5%、対話数は116万（7中総後30万増）、支持拡大は90万（27万増）
 - ・1月の結果をどう見るか
 - ・1月の取り組みの中で確信にすべき二つのこと
 - ・1月の重大な結果を直視しつつ、7中総決定を力に、全党の奮闘で切り開きつつある努力方向こそが、強く大きな党をつくり、統一地方選挙に勝つ大道であることに深い確信をもって、2月の活動では必ず飛躍をつくりだそう

1月の取り組みの教訓と2月の強化方向について

第1に、敵基地攻撃能力の保有と大軍拡に向けた岸田政権の暴走にたいして、不安と怒りが広がるとともに、わが党への関心と期待が高まっており、いまこそ党の存在意義をかけ、打って出ることが求められている

- ・「130%の党」を実現すること、そして統一地方選挙や来るべき総選挙で政治的躍進をかちとることは、この国を「新しい戦前」にしない決定的な保障
- ・すべての支部と党員が、宣伝、対話、署名活動に立ち上がりよう

第2に、「手紙」の読了と討議が支部を元気づけており、支部討議100%を一刻も早くやり切るとともに、2月中にすべての支部が党中央への「返事」を書くことに全力をあげよう

- ・中央に寄せられている「返事」から
- ・2月中に、すべての支部・グループが「手紙」への「返事」を

- ・実際の行動にふみ出すためには、党機関や地方議員・候補者がいっしょに行動することがどうしても必要。そのための機関のイニシアチブを

第3に、全有権者規模の宣伝とともに、本格化しつつある「折り入って作戦」で、すべての後援会員・読者、支持者に掛け値なしに2月中に総あたりしよう。

「折り入って」と一体に、カラーパンフを渡して入党を呼びかける取り組みを強めよう

- ・「折り入って作戦」は、後援会比で13・1%。取り組み支部は33・5%にとどまる全支部に広げることがカギ
- ・得票目標・支持拡大目標を決めた支部が51%という現状を一刻も早く打開し、3月23日までの支持拡大目標の突破をめざし、「折り入って作戦」で、すべての後援会・読者、支持者に、2月末まで必ず総当たりを
- ・1月の中間地方選挙結果から
- ・後半戦の候補者決定について
- ・党機関の臨戦態勢と個別選対の体制確立を

第4に、世代的継承—若い世代のなかでの「党勢倍加」へのカギをにぎる民青同盟員への入党の働きかけと、職場支部での党づくりを本格化させよう

おわりに——2月末までにやるべきことをやり抜こう

- ・2月は、「130%の党」を実現するうえでも、中間目標達成にとどまらず、統一地方選挙に勝利し、岸田大軍拡を止めるためにも、決定的に重要な正念場の月
- ・2月は、来年度から始まる大軍拡予算を許すかどうかが問われる重大な局面
- ・3月末までに中間目標の達成するためには、2月は、月初めからの猛奮闘によって、党員、読者拡大の大飛躍を作り出すことが必要
- ・2月、7中総決定で確認した、期限を区切ってやり抜くべき2つの大仕事
一つは、全国すべての支部・グループから、2月末までを期限に、「手紙」に対する「返事」を中央に寄せさせていただくこと
もう一つは、2月末までに、すべての後援会員・読者、支持者に、「折り入って作戦」の一回目の訴えをやり抜くこと

以上